

二條日記  
上























とて... 海のみ... 教... 人... 柘植君のみ... 十七日... 雄倉鹿野... 元亀君と...

十七日... 柘植君のみ... 雄倉鹿野... 元亀君と... 十八日... 御款會...

奥平大膳大夫昌虎君の葉山神... 元亀君と... 御款會...

元亀君と... 御款會...







~~~~~川後女風~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

新志

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

亦三日御歌會ありけむを係の~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

師名  
野夕立

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

伊美  
恨絶恋

恨み~~~~~  
~~~~~

敵のみ~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

北野御社ノの御宮ノをたゞりて人あはれて御門のあ  
らうは是れ北野御社の御宮なるべしと云ふ月ノ五日ハ  
少河めりて御宮なるべしと云ふ御門玉墻何の  
まくれ北野御社の御宮なるべしと云ふ御門玉墻何の  
まくれ北野御社の御宮なるべしと云ふ御門玉墻何の

はあしへりて御宮なるべしと云ふ御門玉墻何の  
まくれ北野御社の御宮なるべしと云ふ御門玉墻何の  
まくれ北野御社の御宮なるべしと云ふ御門玉墻何の  
まくれ北野御社の御宮なるべしと云ふ御門玉墻何の  
まくれ北野御社の御宮なるべしと云ふ御門玉墻何の  
まくれ北野御社の御宮なるべしと云ふ御門玉墻何の  
まくれ北野御社の御宮なるべしと云ふ御門玉墻何の  
まくれ北野御社の御宮なるべしと云ふ御門玉墻何の  
まくれ北野御社の御宮なるべしと云ふ御門玉墻何の  
まくれ北野御社の御宮なるべしと云ふ御門玉墻何の

平野祭神四社とみえ類聚三代格より正一位平野社とありて今本  
久度古岡比賣神ノにあそりて今も朝廷よりあり  
まくれ北野御社の御宮なるべしと云ふ御門玉墻何の

みやの御宮なるべしと云ふ御門玉墻何の  
まくれ北野御社の御宮なるべしと云ふ御門玉墻何の  
まくれ北野御社の御宮なるべしと云ふ御門玉墻何の  
まくれ北野御社の御宮なるべしと云ふ御門玉墻何の  
まくれ北野御社の御宮なるべしと云ふ御門玉墻何の

北野より御宮なるべしと云ふ御門玉墻何の  
まくれ北野御社の御宮なるべしと云ふ御門玉墻何の  
まくれ北野御社の御宮なるべしと云ふ御門玉墻何の  
まくれ北野御社の御宮なるべしと云ふ御門玉墻何の  
まくれ北野御社の御宮なるべしと云ふ御門玉墻何の













ふぬでれをふりて ちとけ人のちと 河内國平岡神社の神宮の  
家の世嗣よりとす 都よりまゐる物まびとて 我のあかの平  
島と天見屋命を以りてとす かねて

~~~~~  
とよみてとす 川日くれとて みやとちやとす

七月朔日 秋をともちとて 花の月よとて ぬれを風重  
ぬれよとて ぬれとて ぬれとて 廊下會ありぬれ ぬれぬれ  
廊下 ぬれとて ぬれとて 春門ぬれとて 豊原朝臣文秋とて ぬれ  
つとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて  
ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて

~~~~~  
ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて  
ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて  
ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて  
ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて

西宮歌  
初秋風

~~~~~  
ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて  
ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて

~~~~~  
ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて  
ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて  
ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて  
ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて ぬれとて



あはれの大と義天のついでに法師のついで  
ゆんどうのついでに櫻川篤長・鉄屋維教・兼原長保・服部敏夏・井  
屋周行・中村玄祐・山王寺・隆泉法師・木村輝光・千代目・小島  
のついでに風  
のついでに世に  
のついでに

是れ  
初秋露

あはれの大と義天のついでに法師のついで  
ゆんどうのついでに櫻川篤長・鉄屋維教・兼原長保・服部敏夏・井  
屋周行・中村玄祐・山王寺・隆泉法師・木村輝光・千代目・小島  
のついでに風  
のついでに世に  
のついでに

是れ  
水邊萩

あはれの大と義天のついでに法師のついで  
ゆんどうのついでに櫻川篤長・鉄屋維教・兼原長保・服部敏夏・井  
屋周行・中村玄祐・山王寺・隆泉法師・木村輝光・千代目・小島  
のついでに風  
のついでに世に  
のついでに

新甲錦小路あがれとらぬ木村輝光の家









ヤソヒラカ

八十平倉

九日曉雨

むつらね

吹くれ

愛宕山と西れく鞍馬山を北の...  
ざれど...  
やあると...

本村輝光の...  
分の...

影もよみ

かもし川

十日くもれ

の...日...

き...れ...

や...ひ...

師志歌  
晚鐘

こ...あ...

師志歌  
女郎花靡風

め...ら...







又これより西のふもとに大層の天の十蔭ありて  
 かく西のふもとに北のふもとに神嘉殿シカデンあり  
 諸大夫間ありて有  
 御燈樓オホトウロウありて  
 臺のふも五尺ありありハ八九尺や  
 四角なる也  
 人の形が  
 三人ありて

東のふも  
 御臺處  
 御門あり  
 近衛の  
 下賀茂  
 賀茂御祖神社

川水のあり









くさあふみまうれ屋一みゆかすのねれこらこら  
とあしあしを物まわすまのまがごとくまらだん  
十九日新多をましし本多良策やあひあくまらこら北野小  
まらあしあしを物まわすまのまがごとくまらだん

早秋天

月をまぶらのまをまぬまらあしあしを物まわす

毎朝見椋

暎しあしあしを物まわすまのまがごとくまらだん

棚機祭

あしあしを物まわすまのまがごとくまらだん

隔物語息

あしあしを物まわすまのまがごとくまらだん

漁父

あしあしを物まわすまのまがごとくまらだん  
この五首は大堀正輔と判者くそ隠岐守れあはれまらだん  
乃秋をくそあはれまらだん  
廿日あしあしを物まわすまのまがごとくまらだん  
あしあしを物まわすまのまがごとくまらだん  
廿一日あしあしを物まわすまのまがごとくまらだん  
奥の所秋あしあしを物まわすまのまがごとくまらだん

たふふとて三浦亭へまゆりて先夕の清通ぬ久徳の  
まふのれのみあつて陽を生の秋ふみり

早秋

秋の心だうに昔御の夕鐘くらがそとれぬまふりて  
浪風とてあつてあつて秋のしとて

早秋

秋の御の夕鐘くらがそとれぬまふりて  
浪風とてあつてあつて秋のしとて

思日のまふりて三浦亭へまゆりて先夕の清通ぬ久徳の  
まふのれのみあつて陽を生の秋ふみり

















よけい〜  
〜  
大佛と云う一尊  
〜  
堂北の唐厨  
〜  
の御の  
〜

三十三回堂の  
二日  
彼片

〜  
〜  
柳の  
〜  
七月の  
〜

植上御夷

野鹿文秋

四日  
〜  
雄倉主













ついでに千楯殿夏まつり

十三日酉より午までおれどきみおれやうなぬら御歌會お  
まけぬまのぬら御歌會とてまのぬらとてやう十二番  
りくと春門十四番りくと方調判のまのぬらとてよまぬらとて  
まのぬらとて例の丸みまのぬらとてまのぬらとてまのぬら  
まのぬらとてついでにまのぬらとてまのぬらとて勝劣とてまのぬ  
まのぬらとてついでにまのぬらとてまのぬらとてまのぬらとて  
まのぬらとてついでにまのぬらとてまのぬらとてまのぬらとて  
まのぬらとてついでにまのぬらとてまのぬらとてまのぬらとて  
まのぬらとてついでにまのぬらとてまのぬらとてまのぬらとて  
御會式とて

山月歌  
月十五首

山月

雲階をまのぬらとてまのぬらとてまのぬらとてまのぬらとて

海月

まのぬらとてまのぬらとてまのぬらとてまのぬらとて

河月

まのぬらとてまのぬらとてまのぬらとてまのぬらとて

瀧月

まのぬらとてまのぬらとてまのぬらとてまのぬらとて

野月

まのぬらとてまのぬらとてまのぬらとてまのぬらとて

吾等もよき三つを教のふ月可しては引馬師の宗

岡月

是の信れ松のこれよの妙の月ついでに新なるんを

関月

関戸の海や海は月がふゆとさうしてつむ葉をみづれ

路月

の路路もよきとさうしてあつては月のおもひをこれとせ

井月

くろがれもよきとさうしては月のおもひをこれとせ

里月

さふ高のゆふもよき月をこれとせの妙もよきとせ

都月

思ふがよめもよきとさうしては月のおもひをこれとせ

窓月

さふ高のゆふもよきとさうしては月のおもひをこれとせ

船月

さふ高のゆふもよきとさうしては月のおもひをこれとせ

寺月

さふ高のゆふもよきとさうしては月のおもひをこれとせ

社月

「...」の種... 四月廿三日  
八日... 四月廿三日

... 四月廿三日

... 元龜君春門は御饗... 四月廿三日

... 元龜元陸通... 四月廿三日

... 四月廿三日

十四日... 四月廿三日

... 四月廿三日

... 四月廿三日

... 四月廿三日

... 四月廿三日





